

令和2年度
(公社)日本ホッケー協会中学校部会
第2回常任委員会議事録

期 日:令和3年年2月27日(土) 13時00分～

オンライン会議にて開催

参加者 (敬称略)

中学校部会会長:三矢康仁(静岡県:清水中学校長)

中学校部会副会長:馬場治男(埼玉県:南高麗中学校長)

中学校部会事務局長:久保克敏(京都府:瑞穂中学校)

事務局:徳光 寿(山口県:高森みどり中学校)

審判部:尾木典隆(奈良県:桜井西中学校)

競技部:鈴木良子(兵庫県:丹南中学校)

常任委員:松村洋介(東北) 大嶋寿美(関東) 大塚 拓(北信越) 山本 誠(東海)

道端良之(中国) 岩尾幸美(九州)

U-16 海外遠征事務局:幸田伸也(奈良県:榛原中学校) 吉原荘二(宮城県:築館中学校)

.....

令和3年度全中大会事務局:池田潤二(埼玉県飯能市教育委員会スポーツ振興担当)

福島俊介(埼玉県飯能市教育委員会スポーツ振興担当)

令和4年度全中大会事務局:高橋千穂(宮城県栗原市役所)

常任委員会

・構成員:15名

・出席者:14名

規約第6章第19条に則り本会は成立

文責:徳光 寿(事務局)

1 開会

2 あいさつ

会に先立ち、三矢康仁中学校部会長(静岡県清水中学校長)にご挨拶をいただく。

3 協議事項

- (1) 第51回全日本中学生ホッケー選手権大会(埼玉全中)について・・(埼玉県実行委員会)
・「実施要項」「会場関係」 別刷資料あり
・宿泊、弁当要項について など現在の状況を報告いただく

*全中大会および11人制大会の宿泊についての留意事項

- ・大会期間中については、必ず大会事務局を通して宿泊申し込みをする。
- ・弁当については、以前より希望制としている。
- ・全中大会では大会初日(開会式の前)に公式練習を設ける。

※中学校部会事務局からは、全国大会の開催継続を円滑に行うために、主催者であるJHAからの補助金増額を要望し、開催地への経費負担を軽減する努力を行った結果、以下の金額の補助金をつけることができた。これは、JHAに馬場先生が理事として貢献された評価だと考える。今までは、JHAから中学校部会が蚊帳の外だった感があるが、中曽根会長や内藤副会長から信頼をされるまでになり、この金額の増額があると思う。

- ・日本ホッケー協（JHA）会からの補助金（下記は予定額、3月理事会後正式決定）
 全中大会 180万円（2015年までは80万円）
 11人制大会 120万円（2015年までは28万円）
 J-STAR 1500万円

- ・JOC有望選手のトロフィーについて（事務局より）
 例年、オリンピック有望選手にはJOCよりクリスタルトロフィーが贈られるが、令和3年度はJOCからトロフィーを用意しないと連絡があった。令和3年度については。中学校部会でトロフィー又は賞状を準備する。

(2) 全国大会内規事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（事務局）

資料1
資料2

・各ブロック参加枠数の決定

今年度は、昨年12月31日時点の登録チーム数（チームとして人数を満たしている（合同チームを含む）数による比例配分により参加枠を決定する。

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	優勝枠	合計
男子	0	3	4	3	2	4	3	1	2	1	1	24
女子	0	3	4	4	2	4	3	1	1	1	1	24

昨年度は全中を開催していないため、優勝枠をスライドすることで合意した。それに伴い、「全日本中学生ホッケー選手権大会」内規事項2. 全国大会チーム数について(3)を以下のように変更する。

変更前：昨年度優勝チームのブロックに「優勝枠」を男女各「1」もうける。



変更後：前年度優勝チームのブロックに「優勝枠」を男女各「1」もうける。

この規約は令和3年4月1日より適用する。

- ・全国大会のシード権について <方法の確認（シードが9チームの場合）>
 ※令和3年度は・・・・
 ①一昨年度の全中でベスト4に入った府県ブロックを先に分ける。
 ②その後、各ブロックのシード校をランダムに抽選する。但し、予選会を行わずに全中に参加をしている府県はシード扱いをしない。
よって、シードが9チームになった場合は1つのブロックの中にシード校が2つ入る所ができる。

例>来年度

具体的には・・開催地枠と昨年度のベスト4に入ったブロックは、同ブロックにシードチームが2つ入らないように抽選をする。

令和元年度男子ベスト4 優勝：伊吹山（近畿） 準優勝：今市（関東）
 3位：朝日（北信越）、玖珂（中国）

R3 開催地枠 埼玉（関東：埼玉県）

令和元年度女子ベスト4 優勝：大谷（北信越） 準優勝：伊吹山・虎姫（近畿）
 3位：横田（中国）、石動（北信越）

R3 開催地枠 埼玉（関東：埼玉県）

▼

上記結果により、令和3年度の男子については、開催地枠（関東：埼玉県）と近畿ブロック、関東ブロック、北信越ブロック、中国ブロックの1位と開催枠ブロックの5チームについては、先に抽選を行い、この5チームについては同一ブロック内に入らないようにする。その後、他ブロックの1位を抽選する。女子も同様に行う。

- ・決勝トーナメントの組み合わせ抽選

決勝トーナメントの組合せについては、全ての予選リーグの試合が終了した時点で抽選を行っている。次年度もこの方法でおこなう。

※ R 元年度より導入した、「代理抽選依頼」は継続。

- ・ R3 年度以降の全中大会開催地について（**令和5年度の全中開催場所の決定について**）

R3：関東ブロック（埼玉県で実施）

R4：東北ブロック（宮城県で決定）

R5：中体連：四国ブロック

（ホッケーは四国ブロックでは開催が出来ないと考えている。すべてのブロック内で可能な県があるかを早急に聞いていただきたい。令和 3 年度中には内定（できれば決定）していきたい）

※ 2014 年度（平成 26 年度）四国開催：九州ブロック（熊本県）で開催。

常任委員が各ブロックに持ち帰り、開催をしてもらえるところをお願いする。
令和 3 年度第 1 回常任委員会で報告する。

- （3）第 50 回全日本中学生ホッケー選手権大会（静岡全中）について

事務局より、今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった経過を報告。

- （4）U-15 オールスター戦について－報告－

- ・女子監督、男子 HC、海外遠征事務局より今大会の総評を報告する。

- ・江副記念財団助成事業補助金について、担当者より説明がある。次年度については未定

- （5）全日本都道府県対抗 11 人制大会について

事務局より、今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった経過を報告

※ 11 人制大会確認事項

○福井県で 2 年間延長（R 2 年・R 3 年）

○大会参加費を 10, 000 円増額する。（大会参加費 40, 000 円）

○その他について、大会出場選手・スタッフの事前確認やプログラム作成にあたり中学校部会の協力、開会式の簡素化、U 1 5 のテント借用など具体的な調整を行っている。

現在、福井県とさらに 2 年継続してもらえるか交渉中（R3 年 R4 年）である。

早急にあらたに 11 人制大会を開催していただける場所を探さなければならない。2 年後に向けて動き出す必要がある。

東京での開催（大井ホッケー場 2 面）が可能かどうか（日程面、運営面、金銭面）を J H A 事務局と中学校部会事務局と連携をする。

また、常任委員が各ブロックに持ち帰り、開催をしてもらえるところをお願いする。令和 3 年度第 1 回常任委員会で報告する。

ただし、すべてを開催地に丸投げするのではなく、中学校部会サイドも実行委員会を立ち上げ、運営に参加、協力することが必要であると確認する。

- （6）令和 2 年度「事業報告」及び「決算（中間まとめ）」

①令和 2 年度「事業報告」～まとめ～

事務局より報告があり、意義なく承認される。

②令和 2 年度「決算報告」～中間まとめ～

事務局より報告があり、意義なく承認される。

資料 3-1 3-2

(7) 令和3年度中学校部会役員(案)・・・・・・・・・・・・・・・・(事務局)

資料4

- ・会長・・・次年度全中大会開催地(埼玉県)の校長先生にお願いする。
- ・副会長・・・令和4年度全中大会開催地(宮城県)の校長先生にお願いする。
- ・常任委員、専門委員の交代について確認・・・基本は各ブロックに任せている。
次年度ブロック常任委員、専門委員を変更する場合は、旧常任委員で責任をもって5月の常任委員会までに事務局(徳光先生)まで連絡をする。
- ・四国ブロックの常任委員・・・今後の動向を見て中学校の顧問の先生になっていただく。

(8) 令和3年度「事業計画(案)」及び「運営費予算(案)」・・・・・・・・(事務局 会計)

資料5-1 5-2

- ①令和3年度「事業計画(案)」について
事務局より提案があり、意義なく承認される。
- ②令和3年度「運営費予算(案)」について
事務局より提案があり、意義なく承認される。

9) ジュニアユースU15 日本代表チームについて

海外遠征事務局より現時点でわかっていることの情報提供を受ける。

○選考会について

1) 次年度の選考会開催場所(案)

日 程	2021年9月18日(土) 19日(日) 20日(月)
場 所	福井県越前町 県立ホッケー場及び町立ホッケー場 2面
宿泊場所	現在調整中

2) 海外遠征について

基本は海外遠征をする方向で考えるが、現状は厳しい
最終判断は日本ホッケー協会の判断
遠征ができなければ、代替案を考える可能性もある。
海外渡航情報(外務省)等を注視し、代替案準備の都合を考え早めに判断すべきであろう。
情報として、令和3年度は大井ホッケー場は使用不可である。

・U15/16(中学生世代)のタレント発掘の方法

従来からの学校部活動やクラブチームによる選手育成過程での発掘に加え、潜在能力の高いタレントを広く募集し発掘していくようなJSCが推奨するような新たなパスウェイを実施している。

R3年度より、JSC委託事業であるJ-STARプロジェクト(Japan Rising Starプロジェクト)の参画が決定し、現在、タレント検証プランの申請書を作成し審査を受けている段階。年間7回の検証合宿および5回の実行委員会等を計画しなければならないので、ご協力をお願いします。

(1) 従来型のタレント発掘(学校部活動、クラブチームからのパスウェイ)

学校部活動やクラブチームにおいてホッケーを行っている選手を対象とした、従来型のタレント発掘、育成事業。

- ①地区(東・中・西)U15選考会による発掘→ブロック予選にて実施
- ②全日本中学生選手権大会における発掘→大会優秀選手の選出にて実施
- ③U15日本代表中央選考会による発掘

→代表に選考された男女各18名によりオーストラリア遠征を育成事業(国際競技力向上事業)として実施

更に、U15日本代表に選出された選手には、U18地区選考会(東・中・西の3地区により実施)への参加資格を与え、積極的に上のカテゴリーへのチャレンジを奨励。

(2) 新たなアスリート育成パスウェイによるタレント発掘

学校部活動のホッケー部やホッケークラブに所属している者に限らず、ホッケーに適性を有する潜在能力（ポテンシャル）の高いタレントを見だし、優れたコーチングスタッフによる質の高い育成プログラムを提供するJSCが推奨するJ-STARなどタレント発掘・育成プログラム(TID/Talent Identification and Development)との連携を行い、選考していくシステム。

★今年度、U15日本代表に「九州タレント発掘事業」の選手2名が選ばれた
次年度はJ-STARプロジェクトにホッケーが参加をしており、積極的に選考をしていく。

(10) 競技部・審判部より2月20日におこなわれたルール研修会の伝達が行われた。

別紙資料あり

- ・ルール統一研修会(2/20-21)の伝達講習

(11) その他

*問題提議

今後の部活動に関する国の方針(R5には休日の部活動は・・・)を鑑み、
合同チームの規定も含め、今後全中大会の参加条件も現状のままで進めて行くか検討する必要がある。

次年度は、以下の合同チームを大会参加の条件とする。

- ・合同チーム編成条件の再確認
 - * 学校長の承認は必要。・・・学校管理下による大会実施を守る。
 - * 必ず教員による引率であること。
 - * 合同チームとして認められる範囲は、活動実績のある3チームまでとする。
 - * レンタルによる合同チームについては全中大会では認めない。

合同チーム申請の流れ

4月に中学校部会HPに「合同チーム申請書」をアップする。



5月(第2週目の土曜日を締め切りとする)までに申請書を提出
事務局(申請書提出)と各ブロックの常任委員に報告

- 公印の押された者を提出する。押されていない者は認めない。
- 提出先は、基本事務局とする。常任委員が常任委員会当日に持参する場合は、公印の押された申請書のFAXを事務局まで期限までに提出すること。



第1回目の常任委員会で確認・承認

- ・合同チームについて、各ブロック常任委員より報告があり状況交流をおこなった。

4 その他

- ・次年度第1回目の常任委員会の日程確認
令和3年5月22日(土) 場所: 京都

5 閉会

日本ホッケー協会中学校部会副会長馬場治男(埼玉県南高麗中学校校長)様から閉会のご挨拶をいただいて、会を閉じた。